

第3回栗東市地方創生懇談会議事要約

平成27年11月10日（火）午前9時30分～
栗東市役所4階 第3・4委員会室

1. 開会

（市長あいさつ）

平素は、人口ビジョン・総合戦略の策定にあたり、いろいろな角度で議論をいただいていること、お礼を申し上げます。

本日は3回目の会議となりますが、いよいよ地方創生の計画に係る具体的な方向性の検討をいただく段階に入ってきています。アンケート調査の詳細分析結果とともに、人口ビジョンで示した本市の現状に加え、アンケート調査から導き出した結果を踏まえ作成した総合戦略骨子（案）を説明させていただきます。

この総合戦略の策定にあたっては、本市の特性を踏まえ、本市ならではの目標設定、施策の取り組みを行うことで、魅力あるまちづくりを進めていきます。皆さんからご意見をいただく中で総合戦略をまとめていきたいと考えています。

本日の会議は重要なものとなってきますが、率直に様々な角度から議論いただくことをお願いします。

2. 委員紹介について

（省略）

欠席：新川会長、妻鹿委員

3. 協議事項

（1）栗東市人口ビジョン・総合戦略策定のための

市民アンケート調査結果について…資料1、2、3

《資料説明（事務局）》

（省略）

《質疑応答》

委員

居住の評価と住み続けたい意向について、市で分析されたとおりに認識されていると思うが、転居意向において、例えば利便性、住環境、暮らしやすいという部分について、転居意向の方の回答項目と、住み続けたい意向の方の回答項目の内容が少し違っている。例えば、「住み続けたいと思う理由」のプラス面について、「今の場所に愛着・誇りを感じる」、「通勤・通学に便利だから」、「生活利便施設が充実しているから」、「住

宅そのものがよいから」、「住み慣れているから」については評価されているが、一番見落としやすいのは住環境と暮らしやすいという点で、教育環境、自然環境、医療・福祉環境、家賃・物価で評価が低くなっており、特に「行政サービスが充実しているから」で0%に近づいている。これらが転居の際に重要視する項目になっているのではないかと思う。これらの方に定住をしてもらえるか、もらえないかは、市の努力にかかっていると思う。他の条件はどここの市も同じであり、どの市に住もうかと考えた時に、子育ての関係や、高齢者の関係に重点を置かれるのではないかと思う。

事務局

資料3の3ページのクロス集計表について、本市に居住されたている評価事項ごとに、今後も住み続けたいと思われる理由を一つ、単純回答の設問をクロス集計している。先ほどは高い数字の方を説明したが、どのような観点で住み続けたいかという設問なので、住み慣れているのでずっと住み続けたいという方は、住み始めの理由がどのような方であっても一番多くなるということであった。転居したいという方の意向としては、その逆の視点から見えていく必要があると思う。できていないことを選んでくださいという設問にはしていないので、このような結果が出ている。

他市との差別化を図るためには、いかに他市と違う施策が打てるかがポイントとなる。子育てのしやすい環境を目指すのであれば、独自の施策が必要である。これまでの経過では、近隣他市とのサービス水準が一定の水準を保っていないと、一つの市だけが突出してしまうことになり、それによる弊害も起こり兼ねない。過去の経過等も踏まえ、今後どのように取り組んでいけば良いか検討したい。

委員

葉山東学区は高齢化率が非常に高く、三世代で同居されているところがある。先ほど住環境を重視していた層では、駅の利便性などは出ていたが、例えば、中学校3年生の子どもは10年後に24歳か25歳になる。24歳と25歳の子どもが二人いた場合に、安い住宅で同居をしているのかどうか、おそらく大学への進学などで他の地域に転居している。その後、実家に帰って来るのかについても、進学先で就職して栗東市から出て行ったままになる、ということも考えられる。

安価であることや利便性が良いことなどについては、親世代の目線であり、現在、中学校2年生や3年生の子ども達にとっては、このまちに住む理由というものを、今の問題ではなく、これから先も住み続けたいということをどのぐらい思えるかが大切だと思う。まちを愛してもらえるように子ども達を教育していくと、子ども達は引越したくないという話になると思う。幼稚園や小学生の低学年であれば親の言ったことを聞かなければならないということがあるかもしれないが、10年15年はすぐに過ぎるため、三世代が同居できる住宅という考え方もあると思う。

市外に一旦転出しても帰って来られる、帰って来ることができる住宅環境が必要であり、利便性や環境を良くしてという親世代の目線も大切だが、子ども達がこのまちから離れたくないと思えるような目線が必要である。

子どもが小さいときは小さな家でも良いが、大学生になって一旦市外へ転出しても、

戻って来て地元で就職することが現実的にあるかどうか。ある程度の規模がある住宅では可能かもしれないが、20歳代で転入されて来た方を見ると、こういうことができるのか物理的に無理なのではないかと考える。利便性の問題よりも、小さい頃からこのまちに対する何らかの思いを持たさないといけないのではないかと。

葉山東学区は高齢化率が非常に高いが、三世同居の家がかなり多い住宅環境であり、そういう見方もあるのではないかと。利便性が良いことやかかりつけの医療機関が近いことが良いと考えるのは当然であり。そういうことはどこのまちでもしていると思う。地域に対する愛着を持ってもらうためには、安い価格の住宅を供給することがまちに長く住んでもらうことにつながるのか、逆になってしまうこともある。このような面での調査も必要なのではないかと。

事務局

総合戦略の施策の項目とも関連してくるが、一番重要なのは住宅施策であると考えられる。本市は住宅施策を何もしていない状況であり、大学に進学した子どもが就職する時にどのように考えられるのか。進学は遠くに行っても就職は近くに帰ってくるということになれば良いが、今度は結婚することまでを考えた時に、住環境が三世、親世代と同居できるかといえば、現状では物理的に無理ということが多い。三世同居を推進するような何らかの手立てをされている市もあり、検討するための材料だと考えている。

また、問題になりつつある空き家の対策についても、何らかの対応が必要と考えており、今後検討していく段階であるが、空き家に住んでもらえるように、環境問題にも関連する対策が必要である。重要な視点を指摘されたので、この部分について、内部、担当部署で十分検討したい。

委員

転居希望先は草津市、守山市が多いとのことだが、地域的にも行政にそれほど差がないと思う。それにもかかわらず草津市、守山市への転居意向が多いことについて、どのように考えているか。

事務局

転居の際に評価される項目としては、利便性や駅への近さを重視している方もいるので、新しい住宅を見つける場合に、市内では一戸建てやマンションなどの住宅は、ここ数年それほど大きなものが供給されていない。このため、少しでも便利な場所、京都や大阪に通勤している方であれば、鉄道駅に近い場所、草津市や守山市において駅から近く手頃な住宅環境を求められているのではないかと。本市と草津市、守山市を比較検討すると、それほど価格に差はないと思うが、そうすると少しでも利便性の高いところを求めて行かれているのではないかと分析している。

資料2の17ページの間16-2で、転居地を決める際に重視する点を聞いている。特に日常の買い物やスーパーや医療施設に近いところの意向が高く、守山市、草津市に商業施設が集中していることもあり、そうした点でも守山市、草津市を希望される

方が多いのではないかと考えている。

委員

利便性について、金勝学区では自動車がないと生活が成り立たない。このようなことも関連しているのではないかと思う。路線バスについても、1時間に1本しかなく便が少ない、行き先が指定できない、行きたい場所へ行けない。草津市、守山市に転居を希望することもそういうところが関連しているのではないか。

転居することを考えた時に、栗東市の中でもJR栗東駅に近いところを検討しても、JR栗東駅の近くは、商店はあっても実際には全てが揃っておらず。電車に乗って出かけるてはならない。映画館や娯楽等の施設がないために市外に出て行かなければならない。草津市や守山市であればそのような施設もあり、生活がしやすいのではないかと考える。

事務局

本市では、移動手段は自家用車というライフスタイルになっている。高齢になって車に乗れなくなった場合や、自動車を所有していない場合は、公共交通機関であるバスが移動手段になる。

バス路線については、くりちゃんバスの運行経路等の見直しを毎年行っており、出来る限り意向に沿えるように考えてはいるが、十分な状況で運行ができておらず、議論が続いている。

総合戦略の中でもウエイトが高い部分になってくるので、さらに内部で議論する方向に持って行きたいが、バス路線そのものを充実するというのは難しい面もある。どのように対応できるのか、別の手段があるのかどうかも含めて広い議論をして行きたい。

金勝地域はくりちゃんバスでなく、帝産交通の路線バスが30分に1本の間隔で運行しており、市内の中でも最も充実した路線となっている。便数でも市内で最も充実した路線である。

委員

充実しているとは言え、実際に通勤や通学のために乗りたい時があっても、JR手原駅ともつながっておらず駅に行くにも不便で、乗りたい時間帯に便数がない。昼間は運行しているかもしれないが、早朝になく帰宅時間帯に合わない。自家用車で誰かかに迎えに来てもらっている。

委員

林地域では、共有のバス停なので、乗りたい電車があっても、駅に着くのが遅くなる。駅で電車から降りて帰りたい時にバスの便がないか、既に出発してしまっているという状態であり、遠回りになることもある。

事務局

きめ細かくバス停を設置してもらいたいという意見もあり、非常に難しい課題であ

る。路線についても、くりちゃんバスの平均乗車人数は約2人程度の利用である。利用者が少ないが、コミュニティバスを目的として運行しており、市で赤字を補助している。

帝産交通が運行している路線は、独自採算で運営されている路線なので、一定の乗降客があり、運行数も増すことができる。それでも不十分であるという意見も理解できるが、このような状況でも模索しながら少しでも使いやすいように調整している。今後も、必要に応じて見直しを行っていかなければならないと思うが、利用者が増えることが必要なことや、市の財政負担にも限りがあり、大きな課題と考えている。

別の視点では、中心市街地に集まってもらうこと、特に高齢になると交通手段が必要となる。現在、コンパクトシティのための構想や計画を策定しており、その中でもバス路線や代替の交通網も十分に検討して、市のスタンスを考えていきたい。総合戦略においても、住み続けてもらうために一定の交通手段の利便性が重要であり、十分検討したい。

会長代理

資料3の2ページについて、その他意見に「自治体活動がシンプルな地域」という記述がある。最近、行政から自治会に対する色々な依頼が非常に多い。マンションに居住されている方は自治会長を順番にしていることが多く、それが大きな負担となる。

市が自治会に対して、何かの委員を推薦してもらいたいということも含めて、もう少しシンプルにしてもらう必要があるのではないか。

事務局

自治会長は特に充て職が多いので、見直していく必要がある。自治会連合会でも検討してもらっており、この内容を受けて通知をして行くようにできればと考えている。

※原案通り了承。

(2) 栗東市総合戦略骨子(案)について…資料4、5

《資料説明(事務局)》

(省略)

《質疑応答》

委員

市民主体、市民協働によるまちづくりについて、市がしっかりやっている事業もあれば、そうでない事業もあり、責任の所在がはっきりしない場合がある。その結果、事業が上手くいかなかったこともある。市職員がプロ意識を持ってその内容を把握しているか、それに対して委員がどの程度働きかけられるのかという役割分担がはっきりしていない場合がある。

事務局

事前の調整が不足していた場合があったと考えるが、出席する必要がある場合は出席するなど、十分に調整する必要があった。

委員

その事業に対して内容を把握していない場合がある。その部分をどこまで市に任せて良いのかがわからない。

会長代理

市が後援や主催する事業で、例えば、夏まつり実行委員会などの主体性を持って取り組まれているところに、行政と実行委員会との権限の持ち方について、事業をやるかしないは誰に決定権があるのかということか。

委員

市職員と市民が結局人任せになってしまい、事業が上手く進んでいないことが多い。特定の事業についてということではなく、全てでそういう状況がある。市職員も一生懸命しているが、ピントがずれていることがある。

委員

教育環境、医療福祉環境、行政サービスの充実が転居に至る要因だと考えている。教育環境の場合、全国学力テストの順位が滋賀県は少し低いと聞いており、県内での栗東市の順位は高いのか低いのか。また、駅周辺に塾が集中しているが、良い塾に行くために市外を選んでおられる方が多いので、どの程度充実されているのか聞きたい。

事務局

全国学力テストについて、小学校6年生、中学校3年生を対象に、毎年実施されている学力学習状況調査であり学力テストではない。文部科学省の考え方は、それぞれの学校で子ども達を取り巻く学習環境や学力学習の状況がどうなっているのかということなどを調べながら、課題のあるところには何らかの手立てをしていこうというのが大きな前提となっている。それを都道府県ごとに数値が発表され、マスコミが順番に序列化していることから、各学校、地域において大きな課題となっている。

市も県も数値の公表はしていないが、滋賀県は順位が低いといことは新聞に記載されていた。今年と来年、また過去1年とその時の状況、環境により変わるため、毎年、滋賀県や本市の結果は同じではない。本市においても、昨年からの課題であり、各学校で様々な取り組みをしている。

市のホームページに子ども達の状況を公開している。家庭においても、ここに力を入れてもらいたいなど、教育委員会、保護者、学校と一緒に家庭学習にも力を入れてもらって、今後も取り組んでいく。

塾の充実については、市が管理していないので意見として伺っておく。

委員

住宅について、親世代との同居には相当の努力が必要であり、同居している方は努

力をされている。若い方が古い住居に理解があるかということが必要であり、新しい住居を希望される方が多いので、それなりの土地が必要である。一定の距離があったほうが人間関係としては良いのではないかと考える。同居だけが美しい形ではないと考える。

事務局

親世代との同居について、そのような面も含めて、今後、若者の定着や、子どもが住み働き、さらにその子どもを生んでいくよう定着してもらえる手段として、同居も一つの方法であり、重点戦略にも掲げた住宅政策もあるので、この観点でも検討していきたい。

委員

健康推進員について、昔は様々な地域に働きかけてもらっていたが、利用頻度はどれぐらいか。

事務局

健康推進員は市内に120人いて、研修等を開催し、地域で食育や健康りっとう21の推進をしてもらっている。

委員

妊婦検診について、母親学級が各医療機関で実施しているが、何回ぐらい開催しているのか。医療機関で実施されていることは良いが、開催期間によって受講できない人がいると、そのまま出産となってしまう、子育てに悩まれて育児放棄や育児ノイローゼに繋がる可能性がある。そのような方に対してサポートはされているか。

事務局

妊婦検診については、今年から国の制度も利用して自己負担金が少なくなっており、受診を勧奨している。

母親学級については、各医療機関以外でも、市の保健センターにおいて母親学級や父親の新生児に対する講習を開催し、妊婦健診を受診される際に、特に第1子目の母親に対して、子育てを教えてもらう場所がないということもあり、出産後の育児に関する悩みについて、相談を受けている。

出産後のフォローとして、こんにちは赤ちゃん訪問事業を行っており、助産師や保健師が各家庭を必ず訪問し、相談にのっている。国においても、今後、相談支援体制を充実するというを示していることから、市でも検討していく必要があると考えている。

委員

資料4の基本目標③の施策に「地域農業を育むまちづくり」とあるが、今後、どのように農業を推進、保護していくのか。農業を守る、農業従事者を保護する意味と、農地を守るのにどうすればよいと考えているか。農地の宅地化が進んでおり、高齢者が農業に従事している場合が多く農地を守るのが難しい。また、宅地化が進むと農業がやりにくくなる。例えば、品質の向上のための最低限の農薬も散布できなくなり、品

質が低下し低価格で販売せざるを得ない、農業が守れない状況になる。

事務局

農業従事者の減少傾向に対しては、特に、6次産業化に力を入れており、くりカボチャを原料とした焼酎を作るなど、今までにないような新しい展開で農業の充実を図っている。農業の保護については、これまで集団化を進めており、今後も継続するかどうか、さらにT P Pの問題などがあり、それらへの対応も検討する必要があると考えている。

委員

資料4の基本目標②「若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる」について、仮のK P Iを設定し、データから見た人口の流出対策はされているように感じるが、今後の栗東市の人口確保対策を考えると、ここで生まれた子ども達がどれくらい定着するかということが、人口に対しても今後のまちづくりに対しても大切である。K P Iに郷土愛を育むような施策を検討してもらいたい。

事務局

人口の定着ということで、子どもが育ちこのまちで働いてもらうためには、働いてもらえる場も必要である。結婚・出産・子育てにおいては、経済的な問題、子育てしながら働ける環境を整えていかなければ市外に転出してしまうことになり、それに対する施策を考える必要がある。

郷土愛についても、栗東市で育ち、大学進学のために転出して戻って来てもらえること、郷土愛があれば戻ってくるのかということもあるし、K P Iへ反映する内容もあるので検討したい。

委員

学校の教育だけでなく、地域の企業や団体、自治会も含めて、積極的に栗東市の魅力を子ども達に伝えるということは大きな効果を生むのではないかと。

K P Iとして数値化することは難しいが、取り組みを始めることが今後の栗東市には必要である。K P Iに示すことができなくても、今後の政策として検討してもらいたい。

事務局

今年度、地域資源活用ビジョンを策定した。この地域資源は観光名所などだけではなく、文化面もあるし、生活の中で見落としているような地域資源もある。それを掘り起こしながら地域住民の方がそれを誇れるように、磨いて、育てて行こうという指針として策定した。市として地域資源を掘り起こしていくことにより、住民の愛着につながっていくように考えている。

委員

資料5の5ページの施策「男女共同参画のまちづくり」について、K P Iに「きらめき Ritto 参加者数」が設定されているが、この団体だけでなく様々な団体が参画して

いる。きらめき Ritto は予算があることから、行事を開催するために開催しているように感じる。その参加者数を目標にする意味があるのか。

「しごと」について、栗東市に生まれ育ち、大学の進学は市外に行って、栗東市に戻って就職をしたくても、生活をしていけるだけの正規職員になれるような企業がないというのも問題の一つだと考える。

事務局

このK P Iは例としてあげているものあり、男女共同参画のまちづくりのために適当な指標ではないと考えている。今後、検討していく。

会長代理

大学を卒業した若い世代が就職を考える場合、上場企業などのブランド志向が強い。この会議の委員にもまちをがんばって支えている中小規模事業者がいるが、求められたものに応えようと、中小企業も努力している。大企業に比べれば小規模事業者の給料は金銭面はともかくとして、ブラック企業になっているところはない。このあたりはしっかりしているが、若い世代がブランドを求めているというところに対して、地域愛が出てくると良い。

委員

給料だけの問題ではなく、栗東市に住みたい、働きたいという思いを持っている子どもは多くいる。そういう子ども達に、このような中小企業がこれだけあり、求めているところがあるということをもっとわかるようなシステムが必要である。

栗東市には小学校、中学校、大学生のボランティアによる事業が多くあるが、その子ども達がせっかく栗東市に馴染んで、ここが良い、働きたい、こんなことがやってみたいという希望が叶えてやれない。この事業には中小企業も参画しており、青年会議所にも様々なボランティアの子どもがいるが、後につなげていない、守山市や草津市など他へ行ってしまう。つなげていけるような仕組みが必要である。

事務局

子育ての分野においても、行政の施策については、縦割り行政の弊害として、所管ごとに進めている関係から、どうしても切れ目が出てしまっている。それをいかにつなぎ、切れ目なくしていくかというのが重要な視点になっている。横串的に様々な事業を横につないでいくという考え方について今のボランティアのことも含め重要な視点であり、今後、連携の方法は十分に検討したい。

委員

栗東市、草津市、守山市は今後も人口が増えていくとのことだが、資料2の16ページでは約20%の人が「いつか今の場所を転居したい」という意向がある。「転居したい」という人の中に「市外に行きたい」という人が41%であり、実際は約10%程度の人が市外に転居したいということになると思うが、「今の場所に住み続けたい」という人以外に「わからない」、「記載なし」という人もいる。その中で、草津市、守山

市、近隣市との人口の取り合いのようなことになっているのではないか。できる限り環境を良くして、人口の取り合いをしていくようになっている。栗東市の場合は、今のままだでも人口が増えるが、近隣市町も様々な取り組みをされると減ってしまう可能性もある。5年、10年、15年の長期スパンで戦略を分けて考えることも必要ではないか。

今の状況でも栗東市に愛着を感じている方もいるし、今のままだでも良いと思っっている方もいる。良いと思っっている方の中には、利便性が良いからと考えている方もいる。目先でやらなければならないこと、現在中学3年生の子どもが10年経ってもまちに帰って来たいと思うようなことが必要である。これはソフト施策だと思うが、そういうことも必要ではないか。

栗東市の歴史を子どもがどれだけ知っているかと考えると、現在、授業でも取り組んでいると聞いているが、本当にすばらしい歴史がある。栗東市がどうして発展してきたのか、何かをしてきたから人口が増えてきた。何か良さがあつたから増えてきたということ子ども達にしっかり伝え、新しく転入されてきた方にも伝えるということも大切である。悪いところを直すのも良いが、良いところを伸ばして行くということも計画に入れてもらいたい。その子ども達がこのまちに帰って来たいと思うということはどういうことかを考える必要がある。このまちに転入したいという、湖南市の人や甲賀市の人が栗東市に住みたいという方もいるかもしれない。10%以上がそう思っていれば人口は増えていくという見方もできるため、良い部分を検証して伸ばしていつてもらいたい。

事務局

この計画の計画期間は5年間だが、人口ビジョンにおける将来の人口減少を抑えるために総合戦略を策定している。今後、5年間の期間については、例にあるKPIで目標値を定めた事業を示していくが、長期的な視点として、10年程度の中で取り組む施策についても、併せて示せるように、十分検討したい。

委員

以前は児童館が毎日、朝9時から5時まで開館し、活動内容も広報に入っていた。現在は、地域子育て支援センターである金勝児童館と大宝東児童館は毎日開館しているが、他の館は週3日の開館となっている。開館時間も、午前9時から午前10時30分に遅くなっており、利用しにくくなった。

幼稚園に子どもを送った後、児童館に寄って遊んだり相談などができたが、週3日になり何日に開館しているかもわからない。広報にも児童館の活動内容が掲載されていない。新しく引っ越してきた方は児童館の存在すら知らないという状況にある。児童館の開館が週3日というのは財政面もあり無理というのは分かるが、市の広報で児童館の事業内容の紹介をもっとできないのか。

事務局

以前は週5日から6日開館していた。職員の確保や財政面もあるが、このような状況

でも質の高い児童館運営に取り組んでおり、子ども子育ての支援事業計画において、今後、拠点化にするということを考えている。初めて利用される方や転入して来た方への利用の案内については、広報等で啓発をしていく。

※原案通り了承。

(4) その他

《説明（事務局）》

本日出し切れなかった意見については、意見シートにご記入いただき、事務局に1月18日を目途に提出してもらいたい。

次回（第4回懇談会）の予定であるが、1月14日の午後または、1月19日の午前からを考えている。皆様の都合はいかがか。

《会長》

次回1月19日の午前で開催の予定として、日程調整をお願いしたい。本日は多数の意見ありがとうございました。

《説明（事務局）》

次回については、1月19日の午前9時30分からの予定とさせていただきたい。また、文書にて別途ご案内をさせていただく。

4. 閉会（副市長あいさつ）

閉会にあたり、ご挨拶いたします。本日はお忙しい中、ご出席をいただきありがとうございました。多くのご意見をいただいたこと厚くお礼申し上げます。いただいたご意見、ご提案は、市内部でも部・課でそれぞれ項目について検討していますので、その中で十分に検討させていただきたいし、今後戦略に組み込んでいきたいと思っていますので、よろしくをお願いします。

基本的に5年スパンの具体的なプランになりますが、2040年という一つの区切りの人口問題でもあるので、長いスパンでの大きな市としての特性を生かす。あるいは他市とは違う部分を検討していかなければならないと思っていますし、それを元に長いスパンでの長期的な戦略そのものも組み込んでいきたいと考えていますので、次回多くの項目で検討いただきますが、ご出席をいただき、ご意見ご提案をいただくことをお願い申し上げます。今後ともよろしくをお願いします。

以上